



**島根県公立小中学校
事務職員研究会**
会長：林 由里
(松江市立美保関中学校)
編集：広報部
VOL.42 2011.8.8 (夏祭り号)
発行責任者 福井義信 (川本中学校)
島事研ホームページ
<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 2010島事研ビジョン
2年次の取組(会長)
- ▶ 事務グループ活動(津和野町の取組)
- ▶ 全事研大会 鳥取大会速報
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 東北大地震被災地レポート
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 研究部だよりから
- ▶ まんが「フォーちゃん」
- ▶ 編集後記



2010島事研ビジョン 2年次の取組

会長 林 由里

昨年度の取組

昨年40周年を迎えた島事研は、新たな10年のスタートに向け島事研ビジョンを策定し、第4次研究中期計画をスタートさせました。ビジョンでは島事研の目標を“学校の教育力向上を実現する学校事務を研究しそれらの学校事務をマネジメントできる学校事務職員をめざした諸条件の整備を行う”とし、その目標達成に向け、島事研活動の課題にもとづいた取組とその年次別活動計画を作成しました。

今年度の取組

今年は新たな取組の2年次にあたります。1年次の活動を検証し、会員の皆様のご意見を参考にしながら2つを基本方針とした今年度の活動につなげていきたいと考えています。

- ① 島事研ビジョンにもとづいた「学校財務と教育課程」をテーマとした研究活動を推進します。
- ② 急激な世代交代に対応した事務職員育成のための様々な取組を進めます。

また昨年調査からも分かるように新しい世代が急激に増えていっています。島根県に学校事務職員が採用され始めて50年がたちました。学校事務職員の仕事が何も定まっていなかった初期の時代から、様々な職務を獲得していき学校運営に大きく貢献する職となってきた今日です。そしてさらに新しい学校経営に必要なあらゆる学校事務をマネジメントすることにより、学校の教育力向上に資することをこれから目指します。このような50年で獲得してきた職の知識、考え、働き方などを、島事研として新たな世代の会員に引き継いでいきたいと考えています。

— 今年度の動きから —

6月9日代議員会において今年度の活動方針、事業計画、予算などが承認され活動がスタートしています。その中の一つ合同部会を7月15日、大田市において行いました。この会は島事研活動に関わる全ての役員が島事研の活動について考え、目標の共有と自身の役割を考えるために行っているものです。今年は島事研ビジョンの確認とそれをどう進めていくのか、熊丸先生指導のもと演習形式で話し合いました。そのなかで、様々な意見が出てきました。

- 「ビジョンの言葉が難しい」 「会員に伝わらない」
- 「島事研の組織が良くない」 「個人としての具体的な取組が聞きたい」
- 「HPIに会員質問コーナーがあるといい」 等々

このように島事研ビジョンをたたき台にし、皆が自由に語り合うことで新たな発想が生まれたことにとっても感動しました。島事研ビジョンは、立派なものでも完成されたものでもありません。会員の皆様のこのような取組を通し、よりよく進化させていただければと願うところです。

島事研 アクションプラン

今年も皆さんに呼びかけています!!

「授業を見に行こう!!!」

5分間から始めよう。
きっと何かが見えてくるはずですよ。

「財務マネジメント力の向上!!!」

「財務ウイーク」に何かアクションを起こしてみよう。



津和野町の取組 3年間の研究を経て

【日原中学校 渡邊博文】

3年間の「共同実施」研究

津和野町の「学校事務の『共同実施』」研究がスタートした2007年、さて、どうするか、何をするか、まったく雲をつかむような話で、町内事務職員の意思統一もままならぬ状態でした。しかし、何か始めなければと、まずは先進地視察よろしく研究するのだけれど、「○○だから、ウチではできない。○○と違ってウチでは無理だ」などできない理由付けばかりしていました。まさに「君は一生懸命プレーせずに、ルールばかりに文句を付けてる」（『シューカツ！』石田衣良著）状態でした。



『協議会』結成会の折には、「自分たちで首をしめることにならないか」と不安視する声や、「度々出られると電話番号がいなくなるので困る」などと認識不足も甚だしい管理職の意見もありました。幸い、グループ内の事務職員も2年間人事異動がなく、同じメンバーで協議を続けていく中で、少しずつ、本当にぼんやりとではありますが方向性が見えてきました。それは「事務職員の、事務職員による、事務職員のための『共同実施』」とならず、地域や保護者、町教委、町内全教職員のために何ができるかといった考えでした。それが結果的に子どもたちに還っていくことになるという結論です。

この研究を進めていくにあたり、津和野町教育委員会教育長を会長とし、各校校長ならびに事務職員、事務職員未配置校事務担当者、教育委員会事務局職員で構成する「津和野町立小・中学校事務共同実施協議会」（当時）を設置し、その「設置要綱」が公布・施行され、学校事務の共同化による事務部門の強化、事務の効率化などの取組が職務規程として位置づけられました。

これは本務と言えるのかどうか議論もありましたが、当時町内10校の内4校が事務職員未配置で、その事務支援は重要な課題と受け止め、定期的な訪問を行うことを一つの柱としました。また、当時、町内の学校ホームページを見ると、一部の学校のみ開設されている状態で、更新もされず、「忙しい」「よくわからない」といった状況でした。そこで、事務グループによる、津和野町教育情報ウェブサイト「つわのスクールNET」の開設をもう一つの柱にすることにしました。さらに、事務グループ内の研修・事例協議といったOJTの取組、町内教職員を対象とした教育改革等に関する研修会の企画・開催、町内共通利用できる各種事務マニュアルの作成なども柱としました。

取組の評価をするため、町内全教職員対象のアンケートを実施し、認識や期待・要望を集め、年度末には管理職による評価アンケート、事務職員自身の自己評価を通じ、取組に生かしていきました。



津和野町教育情報ウェブサイト
「つわのスクールNET」
<http://www.town.tsuwano.shimane.jp/~gakkou-jimu/>

■■■ 事務グループ活動2年目 ■■■

2007年から3年間、「きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援等のため事務部門の強化対応」の研究を終え、その成果と課題をもとに、昨年「特色ある学校づくり」の推進や教育の質を高めるため、学校及び事務グループの事務職員に適切な指導・助言を行い、学校事務の適正かつ円滑な執行と事務処理体制の確立、事務機能の強化を図り、事務グループの活動充実を進めることとした、「事務グループ活動の充実」の取組を行っています。「協議会」も「津和野町立小・中学校事務グループ推進協議会」と名称変更を行い、「設置要綱」（平成23年3月25日付け津和野町教育委員会告示第5号）及び「運営要綱」（平成23年3月25日付け津和野町教育委員会訓令第2号）が公布・施行されました。



蛇足ながら、事務職員未配置校への訪問やグループ会など、町教委の公用車（軽バン）を使っている。道中車内でいろんな情報交換ができ、とても有意義な時間です。

今年度の重点目標 は次のとおりです。

- ・学校事務機能の強化と事務職員のレベルアップを図る。
- ・地域や保護者、教職員への情報発信と収集を進める。
- ・日原・津和野グループ、町教委との協力・連携をさらに進める。
- ・事務職員未配置校への支援を充実させる。
- ・他地域との実践交流を行い、本町の取組に生かす。

事務グループに期待すること

教育長としての思い

教育長 齋藤 誠

本町は、西周や森鷗外をはじめとした明治維新时期に活躍した多くの先哲を輩出した藩校養老館の気風を受け継ぎ、その後も大正、昭和と先進的な教育への取組みを行ってきた風土があり、戦後もその誇りと伝統の元に教育の町として取り組んできた。しかしながら、現在の急激な少子・高齢化問題は、教育環境に大きな影響を与え、町の将来を担う人材育成に向けた教育のあり方が問われている。

本町では、平成21年度に国の交付金事業を導入し町内小中学校のICT化を図り、パソコン、電子黒板、デジタル対応TV等を導入した。電子黒板やTV等は、児童・生徒の積極的な学習意欲の喚起のため、パソコンは電子黒板やTV等の教材作成や事務効率化を目的としたものである。さらに、学校事務の共同実施や学校再編、耐震化工事等の教育条件整備にも取り組んでいる。

新学習指導要領実施への対応、協調学習といった新しい学習形態への研究や、小中一貫教育に向けた研究等の課題が山積している。

こうした状況に対応するためには、校長を始めとして各教員が積極的に取り組むことが求められる。教員が児童・生徒と向き合う時間を確保する為にも、徹底した事務の効率化と統一化、町内各学校間のネットワーク化が最重点課題と考えている。その実現には事務グループの活動が要であり、今後、より積極的な活動に期待すると共に、教育委員会としても推進体制の一翼を担ってまいりたい。

折しも来年は、鷗外生誕150年という節目の年にあたる。「教育立町・津和野」の機運をさらに高めていきたい。

「共同実施」のさらなる推進を目指して

日原中学校 校長 高橋宏幸

「本校には事務職員が配置されておらず、毎月2回の事務支援を受けている。教頭と仕事を分担しているのだが、定例の支援以外にも、私が担当する旅費事務については不明な点があるとすぐに電話で尋ねている。また、教頭の担当する公費についてもオンライン化され、その処理等に困った時にはすぐに電話をして支援を仰いでいる。このように本校は、『共同実施』のお陰で学校事務が円滑に進んでいると言って過言ではない。いつも快く疑問点・不明な点に対して答えてくれる事務グループの方に、ただただ『感謝』の二文字である。」

これは、左鏡小学校長からの事務支援に対する率直な感想です。津和野町内には9校の小・中学校の内、この左鏡小学校を含めて未配置校が3校あります。職員の校務分掌が多い小規模校にあって、事務職員未配置となれば、一人一人の負担度はさらに増加し、事務グループによる事務支援は、学校運営を進めていく上で欠かすことのできない活動となっています。

津和野町では「津和野町立小・中学校事務グループ運営要綱」を定め「津和野町立小・中学校事務グループ推進協議会」を設立して、事務グループの円滑な活動の推進に取り組んでいます。前述の「事務職員の未配置校の事務支援」は、その取組の一部にすぎません。この他にも事務グループでは、「学校事務機能の強化と事務職員のレベルアップ」「つわのスクールネット」による保護者・教職員への情報の発信「ICTの活用による校務の効率化」などの取組を積極的に推進し成果を上げています。そして、それは各学校の学校運営に大きく寄与・貢献していることは言うまでもありません。事務グループの斬新な活動に対して、津和野町校長会も推進協議会の一員として、これまで以上にしっかりと関わり、さらなる充実を目指していきたいと思えます。

速報 第43回全国公立小中学校事務研究大会「動き出せ！新しい『学校づくり』へ！」 鳥取大会 ～教育課程づくりへの参画を通して～

研究委員会発足から3年。ついに7月28日の第43回全事研鳥取大会第4分科会島根支部の発表を北海道から沖縄までの参加者を迎え行われました。

午前は昨年の県大会でも中間報告を行いました。大田市の学校財務と東出雲町の学校・地域間連携の2つの実践報告を発表しました。取組を通して学校内外での支援の場を広げ、子どもたちの情報を教員と共有し学校財務の効果的な活用と情報の共有化を柱とし、協働することで教育課程づくりに参画し、学校運営の企画・立案・調整を行う中核スタッフとして、新しい『学校づくり』の一翼を担うことができるのではないかと提案発表内容でした。

午後のパネルディスカッションでは『学校づくり』の一員として事務職員がどう動くかをテーマに事務職員、管理職、研究者それぞれの立場から事務職員の実践を基に意見交換が行われました。演習では熊丸先生のご指導で「新しい『学校づくり』に向けて何に取り組むか」をテーマに小グループに分かれ、それぞれ行っている実践や工夫などを出し合い全員で共有しながら、今後の自分たちの取組にどう生かすかを考察していき

ました。全国の参加者と直接話すよい機会となり、どのグループも活発な意見交換が行われ大変有意義な時間でした。指導助言の先生方からは動き出すための多くのヒントをいただくことができ、学校事務職員だからこそできること！小さなことからでも何かしてみようという思いになりました。当日配られた「動き出せ navi！」が参加された全国の事務職員の机上でこれから動き出す第一歩になることを期待しています。

当初から指導していただいた熊丸先生、指導助言をいただいた門脇先生、各々所属する学校の先生方、島事研のみなさんの協力があったからこの発表ができたのだと思います。ありがとうございました。

【石見中学校 坂井佳恵】

初めての全国大会参加で初めての分科会発表という衝撃的な全国大会デビューでした。参加者の皆さんが熱心に聞いてくださりありがたかったです。午後からの演習も自分たちの仕事を客観的に見直すことができてためになりました。
(出雲第三中学校 加藤淳也)

参加者数は少なかったのですが、大変盛り上がり、よい評価もいただきうれしく思いました。
(金城中学校 吉賀孝則)



発表スタッフ全員お揃いのしまね Super 大使吉田君Tシャツを着て臨みました！

人権「一十一」

『心の指』をひらひら

安来市立広瀬中学校 梶岡純子

『これは、何かで読んだ文章からの引用です。』五本の指がパッと開いていたら、小さなものでも大きなものでも、薄いものでも、厚いものでも、それなりにつかめるけれど、五本の指をぎゅっと握りしめていたら、マッチ棒一本すらもつまむことができないう。つかむ時には握っているのもよいけれど、用が済めばサッと放していつでもまた用が足せるようにしておきたい。心もまた指みたいなのでも、いつも柔らかく開いていなければならぬが、何かにとらわれ、何かを思いつめ、独断と偏見でギョッと握りしめたように固くなっていたら、どうにもならない。そんな心でものを判断し、行動したら自分だけでなく、他人をも傷つけてしまう。心の指を一本一本ひらく努力をしてみたい。それが素直な心への努力というものである。うーしかし、私の心の指は永久に開ききれないだろう。今一度、努力するきっかけとなるよう、この記念誌に活字として残しておきたい、云々。』これは、平成二年四月発行の、島事研(当時は県事研)の二十周年記念誌に寄稿した拙文の一部です。

それから二十年経った今の私はというと、やはりその当時に予測していたとおり、だんだん『心の指』が固くなっています。つい楽な方に流され、自分勝手な行動をしたり、苦手な人にはかわらないでおこう、と嫌なことから避けて通ったり。二十年前の私に対して、とても胸を張って言えたものではありません。

身体がそれなりに老化していくのは仕方ない事ですが、『心の指』は、少しでも柔らかく素直に開けるよう努力をしていきたい、とあらためて思いました。



参加された全国の皆さんから感想をいただきました！

実践研究1の必要経費の調査は面白い取組だと思った。次の段階として、例えば決算書を作成し「教材教具にあてられた」「維持管理的な物にあてられた」などに分類整理してみると学校予算の大半が維持管理的な部分に費やされ、ここを見直すことが、教育課程づくりにおいて有益な活動になるのではないかと思った。今あることや先を見るだけでなく、今あることから確かな情報をつくり、それをもとに改善・提言していくことが大切だと感じた。

愛知県名古屋市長有松中学校 毛利和正

東出雲町の取組は、香川でも地域連携について考えようといいながら、未だに実践ができていないので、うらやましいと思う反面、一歩踏み込む勇気の大切さをひしひしと感じました。多角的に物事をみることから1+1=2以上の成果が生まれることを信じて明日から頑張ろうと思いました。

香川県高松市立国分寺中学校
原 恵美子

とても丹念にまとめられた、また思いの伝わる発表でした。最後に柴村さんが発表された2つの視点の違う事例の発表の振り返りと島事研としての提言はとてもわかりやすかったです。田部さんをはじめ研究グループの皆様大変お疲れ様でした。

島根県教育センター 小泉淳樹

私は標準的職務をこなすことに精一杯で「こうしたら児童生徒等にとってより良いのではないか」ということまで考えられない状態だったのですが、今回の発表を聞いて学校事務職員には様々な可能性があり、自分の思いや働きかけ次第で子どもたちや家庭を支援することができることに気づきました。

三重県津市立明小学校
小竹明日美

新しい「学校づくり」へ参画できる「新しい事務職員」になるためにも基本的な知識を身につけ、教育課程や地域にまで目を向けられるよう、私にできることから始めていきたいと思いました。今日は参加できなかった地元の仲間にも素晴らしい実践や考えを是非伝えたいと思います。

沖縄県池間小中学校
石川友紀子

学校づくり、教育課程への参画の取組を聞かせていただき、学校に戻ってから共同実施で各校の参考になる取組を紹介させていただきたいと考えています。グループに分かれての実践交換は、グループ内、また他のグループの人たちと交流ができ、今までの全国大会にない充実感を感じました。

三重県桑名市立多度小中学校
村田 淳一

実践に向かうためのヒントを得ることを目的として参加しました。その意味で、気づきや学びの多い分科会でした。シートにこれから取り組むことを書いている内に、やるべき事がはつきりしてきました。

山形県山辺町立山辺中学校
佐藤悦子

東北大震災被災地レポート

元学校事務職員
太田 明夫

学校を辞めて1年が過ぎたが、未だにあれこれ思い出して「後悔日誌」など記したい気分である。そこに、『爽』に東北の報告を」とのご依頼。何も私が…と感じながら、お受けすることにした次第。

東日本大震災後、日本赤十字社からの要請で宮城へ、「ゆめ風基金」という被災障がい者に特化した団体の活動で岩手へと、全く異なる二つの団体の活動に参加した。義援金のありよう、被災地での障がい者のおかれた状況についてさまざま報告したいが、限られた字数なので、岩手で出会った障がい者家族について書きたい。

精神障害の男性Rさん宅は、地理的に直接の被害はなかったが、津波で病院が被災し、障害に関する診断書を書いてもらえず、年金が支給されないという間接的被災者だった。問題はこの家庭、震災以前から福祉が及んでいない状況と言えた。母親は4年半の間、水道のない暮らしをしていた。市のケースワーカーも、民生児童委員も一度も来ないまま。なぜ今、私がこの町で…という思いも持ちながら、この家庭を支える制度を生かすため、地元行政等の窓口を回った。

それまで私は「ボランティアはできることをできるところで」と言い続けていたが、この時は、「行政はやるべきことはやってくれよ！」と怒りに近い思いを持っていた。

しかし！である。それでは私は、現職の34年間それをしてきたかと自問すれば、怒る資格などないではないか。被災地での活動では、確かに学校事務職員の経験が生かされる場面もあったが、結局おのれが問われる結果にもなってしまった。またまた反省。いや、まさに後悔。

誤解のないよう加えておこう。今、被災地の公務労働者はじつに辛い、押しつぶされそうな状況の中で奮闘している。この目で見て、そのことは十分承知している。

※現地の状況について詳しいご報告ができませんので、「ゆめ風基金」のHP、島根県人教の機関紙「きらら」などお読みいただければ幸いです。

事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

階段を 上ることから 進級す

新学期が始まって、子どもたちはそれぞれ学年が一つ上がる。小学校では低学年は一階の教室で、三年生になると二階の教室になることが多い。三年生はまず階段を上って新しい教室へと入る。担任は誰だろうか、新しい先生だろうか。



新緑や 少し慣れたる ランドセル

四月に入学してきた一年生も、五月の声を聞く和学校にも慣れてきたようだ。集団登校で、上級生に声をかけられながら歩いてきたのが、けっこう同じペースで歩けるようになってきた。ランドセルも少し様になっている。

五月雨や なかなかできぬ 逆上がり

旧暦五月に降る雨を五月雨という。今では梅雨時期の雨のことで、外で体育ができないことが多い。時々晴れ間を見ては、校庭に出て鉄棒にぶらさがっている子どももいる。天候不順でなかなか思うように練習できないようだ。

水飛沫 プール開放 夏休み



通知表というおそろしい関門を通過し、いよいよ夏休みに突入する。なにはともあれ勉強のことは忘れて、これからどこで遊ぼうか楽しみである。午後からは学校のプールが開放され、自由に泳ぐことができるがPTAは大変だ。

☆研究部だよりから☆

<創造しよう 新しい学校事務を！> (研究テーマ)

島事研では・・・

学校教育目標実現・達成のために、公費予算だけでなく学校のもつすべての予算を効果的に活用し教育課程づくりに伴う予算計画・執行・評価・改善のサイクルによる確実な財務運営を行うことを **学校財務マネジメント**と定義します。

～教育活動のどこに関わり、
具体的には何をどうすればよいのでしょうか？～

たとえば	そのときに
1. 学校のミッションや学校教育目標を理解することから始めてみましょう。	「この学校では何を大切にしているか。」
2. 目標達成のためには、教育活動の何に (WHAT) どう (HOW) 関われば良いか考えてみましょう。 ☆今年度は、“学校財務に関する取組・手立て”を通して「教育課程づくりへの参画」を考え、迫っていきましょう。	実態の分析 「何が問題か、経営の重点のどこに関わるか、何をやるのか」 セルフマネジメント (強み【財務】を生かして、関わろう)
3. 「財務マネジメント」を、PDCAサイクルを意識して、実践してみましょう。	Plan 分掌(財務)、重点目標 Do 具体的取組計画、到達目標、評価規準 Check 具体的実践、努力事項 Action 評価 成果と課題をみつけ、次年度への提言

◎ “目標達成の活用シート” に記入し、目標や具体的取組を明確にして実践してみましょう。

(目標達成の活用シートは島事研ホームページに掲載されています。)

【編集後記】

夏真っ盛り！毎日暑い日が続いていますが、皆さん熱中症には十分お気をつけください。

世の中は節電ムード。扇風機やゴーヤの緑のカーテン、様々な節電グッズも話題ですが、皆さんはどんな節電対策をしていますか？

(A・O)



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子